

多治見市長 古川雅典 様

第 12 回たじみ子ども会議「意見書」

第 12 回たじみ子ども会議を 10 月 11 日に開催し、「10 年後の多治見にあなたは暮らしていますか」というテーマで、多治見市のまちづくりについて話し合いました。多治見市子どもの権利条例に基づいて、意見をまとめ、提出いたします。

子どもの権利条例では、市はこの意見を尊重することが定められています。この意見書に基づき、子どもも市民の一員としておとなと共に参加するまちづくりが、実現するよう期待しています。

平成 22 年 2 月 24 日

たじみ子ども会議

記

1. バリアフリー


(1) 全般

現状と課題

多治見市の 10 年後を考え、子ども会議などで色々な人の意見を聞きました。

これから高齢者になるおとなや障がい者など色々な立場の人から、バリアフリーのまちづくりは絶対必要だという意見を多く聞きました。

10 年後誰もが住みやすいまちをつくっていく必要があります、バリアフリーは重要だと考えます。



だれもが夢をかなえられるまちになるといいなあ。

バリアフリーはこれからの多治見にとって大切だと会議を通して実感しました。

提案

赤ちゃんから高齢者まで、障がい者、外国人、誰もが、物理的にも心の面でもバリアフリーなまちづくりを行われるよう要望します。また、バリアフリーのまちづくりに子どもと一緒に取り組めるよう要望します。



ボランティアをする人がまちの中で増えていくことも必要だね。

(2) 障がい者の居場所づくりについて

現状と課題

子どもは誰でも夢があります。将来自分のできることでいきいき充実した日々を送ることができるとを願っています。でも障がいがあるために、自分らしく社会と関わっていきける生活を送ることができるのか不安を抱えている子どもがいます。

障がい者の居場所づくりが大切です。しかし、市内では、そのための受け皿が足りなくなる見込みだと聞き、その確保が望まれます。

また、障がい者の居場所づくりには、周りの人たちが障がい者のことを知り、理解することと共に、居場所となる施設が市民にもっと親しみやすくわかりやすい場所になることが必要です。現在市の「授産所」で、市民にわかりやすくなるように施設の名称を変更しようとしていることは、よいきっかけと考えます。

分かりづらさをなくしないと、周りの人との交流も進まないと思う。



提案

- 1 障がい者の居場所を確保するために、施設の増設など、受け皿確保に向け検討することを提案します。
- 2 市民に身近な場所になるために、施設の名称等も含め、施設や障がい者の理解を得るための広報や交流の機会をつくることを、事業所に働きかけることを提案します。
- 3 市民が、障がい者との交流やボランティアに参加していくよう、働きかけることを提案します。

みんなに障がい者のことを知ってほしい！！



2. 子どもの居場所づくり

現状と課題

現在、多治見市には、太平児童センター中高生スペース、子ども情報センターなど、地域に子どもの居場所となる施設が増えてきており、うれしいことだと思っています。しかし、すべての中高生等の生活の場からのアクセスを考えると、利用が難しいところもあります。また、太平児童センターの音楽スペースは防音機能がついておらず、十分に利用することができないと聞いています。

私たちは自由にかつ安全に自己表現できるような場所が、子どもたちが利用しやすい場所にあり、子どもが有効に活用することができるとうれいと考えます。

また、中高生の居場所とそれ以外の子どもの居場所を分けずにいっしょにしたほうが、違う年齢同士のいい関係が生まれると考えます。



中高生と小学生を分けないスペースがあってもいいんじゃないの？

提案

1 多治見市が検討している、駅北の公共施設の中に、子どもたちが自己表現できるような施設の整備を提案します。

(施設内容)

音楽や体を動かすことができ、子どもたちが交流できるオープンスペースがあり、子ども情報センター機能を持った施設。

2 施設整備や運用は、子ども参加によって行うことを提案します。

利用のルールも自分たち
で決めたい!



3. 商店街と子ども

現状と課題

私たちは、今近所の人と交流する機会も少なく、残念に思っています。でも、旅行をしたときに朝市を利用したり、立ち寄ったまちの商店で買い物をしたりすると、まちのにぎわいや商店の人との生の会話のやりとりにとっても魅力を感じます。それは、人と交流している実感を持つことができるからです。

多治見の商店街も、にぎわいを取り戻すことができると、人との交流を楽しむことができると思います。魅力のあるまちは、市外からも人を呼び寄せることもできると思います。

「この魚どうやって料理する
の?」とか聞いてみたい!



提案

多治見の商店街のにぎわいを取り戻すために、次のことを提案します。

1 空き店舗を利用して子どもが自由に集まれる場所をつくることを提案します。

理由：子どもが集まることは、商店街のにぎわいにつながるのだと考えます。

2 商店街づくりに、子どもの意見を積極的に反映することを提案します。

理由：子どもも商店街を訪れる市民の一員です。子どもの意見を商店街づくりに反映することは、誰もが訪れたい商店街づくりにつながると考えます。



会話のできる商店街にしたいな。

4. まちづくり子ども対象アンケート

現状と課題

まちづくりに子どもが積極的に参加していくことは、私たちの願いです。

まちづくりについて、子どもを対象にアンケートをとることで、10年後はおとなとなる子どもたち、また10年後の子どもたちのための意見が出され、まちづくりの参考とすることができると思います。また、これをきっかけに、子どもたちがまちづくりや、子ども会議について関心を持つことができると思います。

子ども会議のとりに
み、みんなに広げたい!



提案

多治見市のまちづくりについて、子ども対象アンケートを実施することを提案します。
(アンケート内容)

(1) 対象年齢

- ・6歳～17歳（小学1年生～高校3年生相当）

(2) 内容

①多治見のまちづくりへの希望

ア まちづくり全般について

イ 多治見のまちづくりにどう参加したいのか（希望）

例 子ども会議開催方法などについての希望

ウ 子どもが利用する施設についての希望

例 開設時間

エ 商店街空き店舗を利用した子どもの居場所についての希望

②人権（子どもの権利）についての考え

ほか

(3) その他

アンケートは子どもにも答えやすいものにする

小学1年生だからこそ見えるものもあると思う。

子どもたちがまずまちづくりに興味を持つことが大事。そうすれば、色々な楽しい意見も出てくるはず!!

子どもたちが関心持つよう、私たちからも働きかけます!!

絵を入れたりするといいと思う。



子ども会議に出ようと思っても予定が合わない子や、会議に出てもどうやって話せるか不安を持っている子がたくさんいると思う。みんなが参加できるようにするためのアンケートにしたい。

